

スピノサド・フィプロニル粒剤 プリンススピノ粒剤 6	取扱メーカー： 日産、北興、ダウ 原体メーカー： ダウ、BASF
成分： スピノサド〔ピノシン系〕……………0.75% フィプロニル〔フェニルピラゾール系〕……………0.60%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 異なる殺虫メカニズムのフィプロニルとスピノサドが組み合わせることでユニークな相乗効果が発揮して、フタオビコヤガを始めとしたチョウ目害虫や、イネドロオイムシに対する優れた効果を示す。
- 水稻に対する安全性が高く葉害の心配が少ないため、は種時から移植当日まで処理できる。また各種散布機（は種同時施薬機、動力散布機、移植時の施薬器具）に適した製剤である。
- スピノサドは天然物由来の成分なので、多くの「特別栽培米」で化学合成農薬の使用回数にカウントしない有効成分として認められている。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 水稻の育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水した後、田植機にかけて移植する。
- 水稻のは種時処理は、は種・灌水後、育苗箱1箱当たり50gを均一に散布した後、覆土する。
- 適用作物（水稻）への葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。

【薬効・葉害等の注意】……………

- 適用作物（稲）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植する。
- 軟弱徒長苗、ムレ苗、移植時期を過ぎた苗などには葉害を生じやすいので、注意する。
- は種時覆土前散布の場合、低温で生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意する。
- 本田の整地が不均整な場合は、葉害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受ける。

【安全対策上の注意】……………

- フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 甲殻類に影響を及ぼすので使用時並びに使用後も注意。

【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピ/サドを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネドロオイムシ	育苗箱（30×60×3cm，使用土壌約5ℓ）1箱 当り 50g	は種前	1 回	育苗箱の床土に均一に混和する。	1 回	1 回
	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ニカメイチュウ イネツトムシ フタオビコヤガ イナゴ類		は種時 （覆土前） ～移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	イネヒメハモグリバエ		は種時 （覆土前）				